

# 甲斐路の摘粒講習会資料

平成26年6月  
果樹技術普及センター

## 〈収量目標〉

目標果房重 ➡ 500g

10a当り 収量目標	平均 果房重	10a当り 着房数	着房数の目安		
			3.3㎡当り	7尺間当り	7尺5寸間当り
1,800kg	500g	3,600房	12房	16房	18房

## 1. 新梢管理

- ◆結実確認後、花振るいや無核果の多い房の新梢をかき、適正な明るさを確保する。
- ◆新梢数の目安は、3.3㎡当たり18～20本とする(7尺5寸間当たり27～30本)。
- ◆極端な新梢管理は、日焼け果・縮果症の発生の助長や樹勢の衰弱などのため控える。
- ◆副梢は、葉を1～2枚程度残して摘心する。

## 2. 摘房

- ◆結実確認後 ➡ 花振るいした房、形状の悪い房、着粒過多の房から摘房を実施する。(落花後15～20日を目安)□

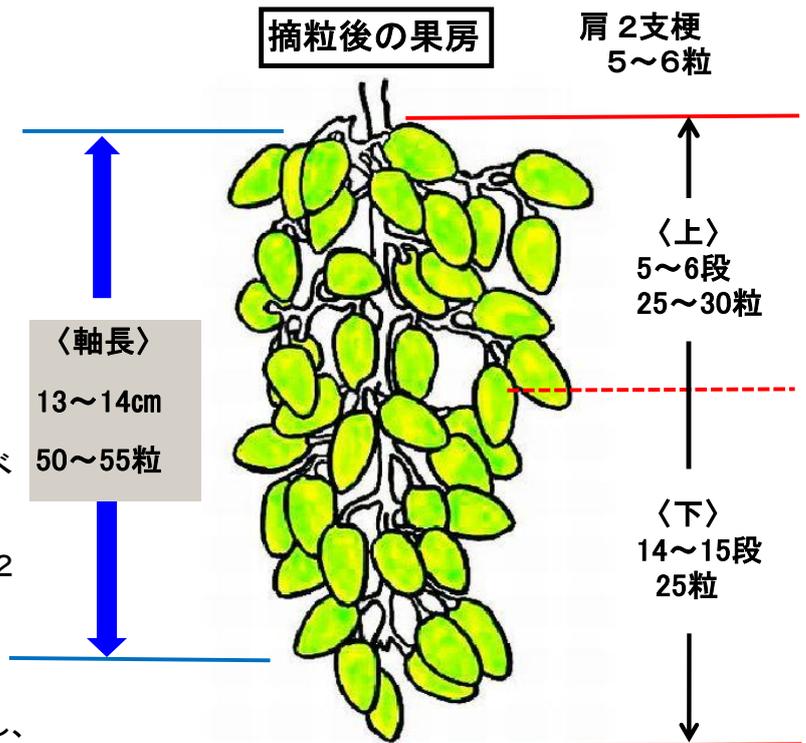
- ◆原則として、1新梢1房とする。

新梢の程度	摘房の目安
弱い新梢	基本的には空枝
中～強い新梢	1房
特に強い新梢	1～2房

★摘房後にクラフトのカサをかける。  
→→→病気や日焼け等の防止のため

## 3. 摘粒・房の整形

- ◆内側の果粒を除去し、外側1粒ならべとする。
- ◆縮果症が発生しやすい場合は、1～2割程度多めに残す。
- ◆果梗のツノや花カスを残さない。
- ◆硬核期以降に縮果症の果粒を除去し、仕上げの摘粒を行う。



安心・安全な農産物の生産に心がけましょう！